

幻のソウル

「それじゃあ、よろしくね」と同期の島田雅章こと島ちゃんから、リレートーク依頼のメールを受信した数分後、編集部より執筆要項が届きました。これで、学生時代島ちゃんのノートを清書し提出したレポートで、単位が取れた恩を返すことができます。



青年技能者が日頃の成果を発揮すべく、技能の日本一を競う技能五輪全国大会は、昨年の福島大会(10/27~28)で39回目の開催となりました。昨今のものづくり気運が高まるなかで、参加選手の増大とともに若者をはじめ企業、学校、団体などの単位で多数の見学者が来場し、会場は熱気と活気で溢れています。

また昨年は、韓国ソウルにおいて技能五輪国際大会(9/13~16)が開催されました。国際大会は隔年の開催です。前回はカナダ、次回はスイス、2007年には静岡県で開催が予定されています。韓国で開催された国際大会には、一昨年の38回技能五輪全国大会で優勝した選手が日本代表として、技能の世界一に挑みました。

ここで、家具職種における全国大会と国際大会の違いを少し述べたいと思います。まず、第1に競技課題の公表方法があげられます。全国大会の場合、課題は大会の約3ヵ月前に参加選手へ公表されます。よって、課題に対する十分な練習が可能となり、競技では図面を見ないで取り組む選手も少なくありません。一方、国際大会では競技当日に課題が公表されます。どのような家具を作るのか前日までわかりません。しかも競技課題の仕様書や課題説明は英語とフランス語であり、通訳が付くものの専門用語の微妙な言い回しに、十分意味が伝わらない

場面が出てきます。選手は言葉のハンディキャップのなか、まさに家具技能工としての能力が要求されます。

次に設備基準があげられます。全国大会では、選手が平等な環境で競技に取り組めるよう、ある程度使用機械・器具の制約を設けていますが、国際大会では実質的に何を使用してもよい状態です。例えばある国の選手は、ポータブル万能木工機(鋸・かな・ルータなどの機能が一体になっているもの)を持ち込み、クローゼットのような工具箱を衝立のように立てかけ、与えられた競技スペースを小さな工房に替えています。家具職種の場合、日本代表とは言え持参工具等は個人(出身企業)が調達している現状ですので、どうしても限界があります。

以上のことから、残念ながら家具職種では上位入賞が困難な状況です。国際大会で優秀な成績を修めるためには、選手の努力はもとより家具職種においても業界または公的機関が、情報の一元化や傾向と対策など大会に向けた支援システムを確立する必要があるのではないのでしょうか。

さて、そろそろ本題に入らなければなりませんね。前述のように今回の国際大会が隣国での開催ということで、大会の雰囲気と本場韓国料理を味わう良いチャンスだと思い、いざ成田に向かったのですが…。2001/9/11。搭乗予定の航空便が欠航となりツアー中止、そして前置きの長いリレートークとなりました。



今回の「リレートーク」は、沖縄ポリテクカレッジの板倉真氏にお願いしました。学生時代の良き先輩で、当時木材加工科全学年のリーダー的存在でもあった方です。それでは、よろしくお願い致します。

*現 高度ポリテクセンター